

学校名	笛吹市立春日居中学校	教科名	理科 英語
研究主題	より良い学び手の育成 ～主体的・対話的で深い学びの実現を通して～		

1. 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ①生徒の学習過程を意識した授業展開の検討・実践
- ②見方・考え方を広め、深い学びにつなげる対話活動
- ③学びの実感と学び方を学ばせる振り返り活動
- ④目指す生徒像の実現可能性を高めるカリキュラム・マネジメント
- ⑤学習会などを通じた教職員間の討議の充実

(2) 具体的な研究活動

①生徒の学習過程を意識した授業展開の検討・実践

「授業の型」（「受け止める→考える→予想する→確かめる→わかる・できる」という学習過程）を意識した授業展開を、教科ごと検討し、授業実践を通して学び合いながら改善を図っていく。

「受け止める」…課題把握だけでなく、課題発見や課題設定、見通しを明らかにするなど自分事となれるような状況や設定を教師が仕組むことで主体的に学びに向かえるようにする。

「考える」…個人で考えたりまとめたりして必ず自分の考えをもつようにする。

「予想する」…他者との対話を通して、既習事項や根拠を明確にして説明する場面を設定したり、他者の考えの意図や意味をわかるまで訊き合う場面を設定したりする。

「確かめる」…グループの対話によって可視化された考えを教師による意図的な指名によって全体で共有する。

「わかる・できる」…振り返り時に自己内対話の質を向上させ、深い学びへと向くことができるようにする。

②見方・考え方を広め、深い学びにつなげる対話活動

授業の型において「予想する」の場面でのペアや小グループでの対話活動は、わかっていることを伝え合う、意見をまとめるだけでなく、お互いの考えの意図や意味をわかるまで訊き合うような考えを交流する場として活用する。「自分の考えを根拠を明確にして相手に伝える」に加えて「相手の話の意図や意味を、本当にわかるまで、遠慮なく訊くこと」に注力して指導したり、コーディネートしたりすることで、深い学びを目指す。

③学びの実感と学び方を学ばせる振り返り活動

○教科の振り返り

・いつ振り返るのか？

教科ごとに設定し、単元デザインシート（資料参考）に明記する。

・何を振り返るのか？

振り返りの4つの視点

- ①何がわかったのか、何ができるようになったか。
- ②何がわからなかったのか、何ができなかったのか。
- ③何に着目したか、どのように考えたか。
- ④次の学習の見通しをもったり、生活とのつながりを考えたりしたか。

○1日の振り返り

・生活学習記録簿（資料参考）

「言語活動の充実」「家庭学習につなげる」を目的とした取組。毎日帰りの会の10分間を生活学習記録簿記入の時間として全校で統一して行う。担任だけでなく全ての教職員で教室を巡回し、生徒の様子を見取ったり、アドバイスを与えたりしながら、記入内容の質の向上を目指す。

④ 目指す生徒像の実現可能性を高めるカリキュラム・マネジメント

- ・ 学校教育目標の見直し（目指す生徒像の設定）
- ・ 単元配列表の作成，単元のつながりを確認
- ・ 単元デザインシートの作成（単元目標，評価規準，振り返り活動の計画）

学校教育目標を3つの資質・能力で見直す

春日居中学校 学校教育目標		学校教育目標に掲げる考えられる資質の展開				
① 豊かな心を持ち、思いやりのある生徒 ② 知性に富み、進んで学ぼうとする生徒 ③ 健康でたくましい生徒 ④ 責任を重んじ、公共心に富む生徒 ⑤ 勤労を尊び、奉仕する生徒		①	②	③	④	⑤
【知識・技能】 何を理解しているか 何ができるか						
【思考力・判断力・表現力等】 何を理解しているか 何ができるか どう使うか						
【学びに向かう力・人間性等】 どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか						

全職員の意見や願いをまとめたもの					
【知識・技能】 何を理解しているか 何ができるか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的を明確にする ・ 目的を達成する ・ 人の言動、表情の意味が分かる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら考え、計画を立てて行動する力 ・ 行先の学習を振り返り、次の手立てや改善方法を考えられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら考え、計画を立てて行動する力 ・ 行先の学習を振り返り、次の手立てや改善方法を考えられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら考え、計画を立てて行動する力 ・ 行先の学習を振り返り、次の手立てや改善方法を考えられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら考え、計画を立てて行動する力 ・ 行先の学習を振り返り、次の手立てや改善方法を考えられる
【思考力・判断力・表現力等】 何を理解しているか 何ができるか どう使うか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受け入れる ・ 自分の考えを確信できる ・ 変化する意見が受け入れられる ・ 他者の気持ちに寄り添う ・ 自分と他者の違いを尊重する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自律的な学習力 ・ 主体的な学習態度 ・ 自己学習力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自律的な学習力 ・ 主体的な学習態度 ・ 自己学習力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自律的な学習力 ・ 主体的な学習態度 ・ 自己学習力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自律的な学習力 ・ 主体的な学習態度 ・ 自己学習力
【学びに向かう力・人間性等】 どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他者と変え合いの心が生まれる ・ 自ら学ぶ姿勢を身に付ける ・ 人の命、相手の立場に立つて考え行動することができる ・ 他者も自分も大切に、協力し合う姿勢を身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら学ぶ姿勢を身に付ける ・ 自ら学ぶ姿勢を身に付ける ・ 自ら学ぶ姿勢を身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら学ぶ姿勢を身に付ける ・ 自ら学ぶ姿勢を身に付ける ・ 自ら学ぶ姿勢を身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら学ぶ姿勢を身に付ける ・ 自ら学ぶ姿勢を身に付ける ・ 自ら学ぶ姿勢を身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら学ぶ姿勢を身に付ける ・ 自ら学ぶ姿勢を身に付ける ・ 自ら学ぶ姿勢を身に付ける

<p>主体的に取り組み、物事の本質を理解し、探究することができる。</p>
<p>批判的に思考・判断し、自分の考えを根拠を明確にして伝えることができる。</p>
<p>認め合い、支え合い、生涯に渡って学び続けることができる。</p>

目指す生徒像

⑤ 学習会などを通じた教職員間の討議の充実

- ・ 一人一実践の実施
- ・ 日ごろからお互いの授業を見合える教職員間のつながりをつくる工夫

(3) コロナ禍における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組

- ・ 教育課程の再編成（カリキュラム・マネジメント）を余儀なくされたがプラスと捉え、学校教育の根本にあたる学校教育目標を見直し、実現するための単元構成・単元デザインを計画する。
- ・ 従来の話し合い活動による対話が大きく制限される中、それを補うものとしてホワイトボードやICTを活用する。他の生徒の考えを知る機会をつくることで対話の方法を工夫する。

2. 研究の成果と課題 (○成果 ●課題)

- 「授業の型」では「受け止める」場面で、課題や目標を明確にすることで、生徒自身、学習の見通しがもて、主体的な学習につながる事ができた。
- 振り返りでは、視点を明確にすることで、わかったこと、わからないことを具体的に明記することができるようになった。また、言語活動を充実させることで、「理由や根拠」が明らかになった振り返りができ、自らの学びにつなげている生徒の姿も見られるようになった。
- 単元デザインシートを基に授業づくりをすることで、単元全体の見通しがもて、次の授業へのつながりを意識した実践ができた。また、明確な課題設定や評価と一体となった授業が展開できた。
- 学びの過程（自己の変容）の振り返りを明記することが少ないため、授業内における振り返りやめあてを基にした振り返り活動が必要である。
- 生徒の振り返りをどのように捉え、評価につなげていくか今後検討していく必要がある。

3. 研究授業の概要

【理科】

(1) 単元名 電流とその利用 (第2学年)

(2) 本時の目標

既習事項と4つの演示実験の結果から、「電流の流れは電子の流れである」ことを科学的根拠に基づいて説明する。また、自他の理解が深められるように主体的に授業に取り組む。

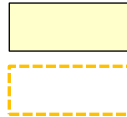
(3) 本時の評価規準

- ・実験の結果から科学的な根拠に基づいて図や文章を用いて電流の正体を説明することができる。(思考・判断・表現)
- ・実験結果から、既習事項を振り返り科学的な根拠に基づいた考察ができ、電流の正体に迫ることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

(4) 授業の展開

流れ	学習内容	教師の支援・指導
受け止める (5分)	<p>○前時までの復習等をする。</p> <p>○前時の演示実験を振り返る。</p> <p>①誘導コイルの+極と-極の間に紙をかざす ・貫通した。線ではなく粒の集まりではないか。</p> <p>②クルックス管の左右に電極をつなぎ、様子を観察する。 ・-から+へ動いている。直進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・静電気について簡単に復習させる。 ・日常生活で「電流」を感じる場面を振り返らせる。 ・どのような結果だったか、どのような予想を立てたかを確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">めあて：電流の正体を科学的根拠に基づいて説明しよう。</div>		
考える 個人 (10分)	<p>【演示実験】</p> <p>③クルックス管の上下に電極をつなぎ、様子を観察する。</p> <p>④十字版入りのクルックス管を使い、クルックス管の様子を観察する。</p> <p>○①～④の演示実験の結果と結果からわかることを小グループで共有する。〔対話活動①〕</p> <p>○結果や結果からわかること、小グループで共有したことを科学的根拠として、電流の正体について自分の考えを書く。</p>	<p>※クルックス管に加える電圧が大きすぎるとX線が発生するので、大型モニタに様子を映し出して行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ実験結果をもとにして考えたことを個人でまとめさせる。
予想する グループ (15分)	<p>○個人の考えを小グループで共有して、ホワイトボードにグループの考えをまとめる。〔対話活動②〕</p> <p>○小グループごとにまとめた考えを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人でまとめた考えを小グループごとに共有させる。 ・既習事項をまとめたものを黒板に提示する。 ・自分の考えがなかなか書けない生徒に対しては、実験結果をもう一度整理して、実験結果と「電流」の流れとの矛盾に気付かせる。
確かめる 全体 (8分)	<p>○教師の説明を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電流の正体は、-の電気の性質をもつ電子である。 ・電子は-から+に向かい流れる。つまり電流の流れは、本当は、+から-ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードをタブレットで撮影して、その画像を大型モニタに写し出す。
わかる 全体 (7分)	<p>○本時の学習をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電流の流れと電子の流れについて考えた科学者(アメリカの科学者「ベンジャミンフランクリン」とイギリスの科学者「J.Jトムソン」)について映像を視聴する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書の映像教示をモニタに映し出し、電流の流れと電子の流れの矛盾点を科学者の名前とともに紹介する。
個人 (5分)	<p>○振り返りカードに振り返りを記入する。〔振り返り活動〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの視点(「学びの成果、自己の変容」, 「目的と思考過程」, 「学びの調整、生活との関連」)を踏まえて書くように指導する。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善



生徒の姿

教師の手立て・改善点等

【カリキュラム・マネジメントと授業の型】

○授業の型…指導案参照

○単元デザインシート

単元名		電流と電圧 3章:電流の正体(6時間) 終章:どれだけ電流が流れたか(2時間)				
単元デザインシート 第2学年(理)科	単元で達成を目指す「学びの姿」	①電流についての観察・実験を通して、電流と電圧との関係および電流のはたらきについて理解させる。 ②電流と磁界を日常生活に関連付ける初歩的な見方や考え方を養う。 ③静電気の性質を調べ、静電気の流れる電流であることを見いだすとともに電流が電子の流れであることを知る。 ④学んだことを活かし、日常生活と関連した発展課題を設定し、課題解決に向け主体的に学習に取り組む。				
	単元の実践	実践結果の寄与、振り返りカード、定期テストの結果より、「思考・判断・表現」の項目において課題が見られる。				
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
①電流により物体に電気がたまることや、電気には+と-があることを理解し、知識を身に付けている。 ②静電気の性質を調べ、知識を身に付けている。 ③電流と電圧の関係を調べ、知識を身に付けている。 ④電流と電圧の関係を調べ、知識を身に付けている。 ⑤電流は電子の流れであることを理解し、知識を身に付けている。 ⑥電流の性質や利用について知る。		①実験により、電流の方向は引き合う力と反り合う力があることを見だし、自らの考えをまとめたりして表現している。 ②発展課題について、電流と関連づけ、自らの考えをまとめたり表現したりしている。 ③電子線の流れを電子と関連づけて考えている。 ④探究実験をもとにして、電流の正体について、科学的根拠に基づいて考え、表現することができる。		①静電気が流れるときの現象に関心をもち、静電気は電流の一種について調べようとする。 ②演示実験から電流の正体について関心をもち、科学的根拠に基づいて説明できるように、具体的に課題に取り組むことができる。 ③学習したことを活かし、課題に取り組んでいこうとする。 ④教材の性質や利用について関心をもち、調べようとする。		
単元の計画						
次	1(1時間)	2(1時間)	3(2.5時間)	移行(0.5時間)	終章(2時間)	
	静電気	静電気と電流	電流と電子	放射線	どれだけ電流が流れたか	
学習活動						
単元で達成する「学びの姿」	静電気の性質を調べる実験を行い、異なる物質どうしをこすり合わせる時静電気が起こり、帯電した物体間には空間を隔てて力がはたらくことを理解させる。	静電気と電流の流れであることを考えさせる。	様々な演示実験から電子線の流れを行い、電流が電子の流れであることを探究事項や科学的根拠をもとに、考えさせる。さらに電流の流れと電子の流れが連関していることの歴史的背景を押さえる。(本時)	放射線に関する資料を使いながら、性質や利用について、理解させる。	学んだことを活かし、電流計に流れる電流の大きさを考えることができる。	
振り返りの視点と方法	振り返りカード 何が明確でも、何がわからなかったのか 自分が出したように考えたのか 他の人の意見を聞いて、分かったこと、考えたこと 日常生活と学んだことのつながりは何か					
重点	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能	主体的に学習に取り組む態度	
記録		○	○			
評価の方法	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 行動観察・振り返りカード・小テスト	【知識・技能】 【主体的意欲】	【思考・判断・表現】 【知識・技能】 行動観察・振り返りカード・小テスト	【知識・技能】 【主体的意欲】	【主体的意欲】 行動観察・振り返りカード	

・単元全体を見通して、生徒の実態を踏まえた学習計画を立てる。

・単元を通して育成したい資質・能力を明確にする。またそれが学校教育目標のどれに大きく関わっているのかも明確にする。

・生徒の学習活動に対する教師の具体的な手立てを明確にする。

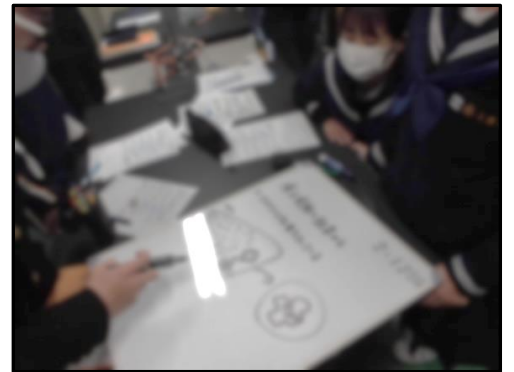
・振り返り活動の時期と方法を計画し、時間的課題をクリアした中で効果的に学びにつながる振り返りになるようにする。

【対話活動】

○小グループでの対話を通して、自分の考えの**根拠を明確にして伝える**機会を設けていた。

○矛盾する内容を説明するためには、個の意見をしっかりともらった上で話し合いに参加しなければならないため、**必然的にお互いの意見に対して訊き合うという対話活動**となっていた。

- ・ホワイトボードを活用し、考えの視覚化。
- ・演示実験や既習事項の振り返りを行い、科学的根拠として活用できるような授業の構成。
- ・他者との対話を円滑に行えるようなワークシートの作成。



・ワークシートを用いて、自分の考えを一度まとめるための十分な時間の確保。

【振り返り活動】

○「**結果の学び**」とともに、「**学び方の学び**」が行われていた。

・OPPA シートにどのような視点で振り返りをまとめればよいのかわかる、「振り返りの視点」を提示。

- ・単元を見通した授業づくり。(授業の型)
- ・大型モニタへの投影など ICT を活用し、視覚的にも理解しやすい工夫。
- ・個の考えをしっかりとまとめる工夫。
- ・小グループを活用した対話的な学び。
- ・学級全体での考えの共有。

～授業に対して～ (生徒の振り返りより)

- ・今まで、電流は+極から-極に流れるものかと思いついてきたが、電流の正体が「電子の流れ」であることに驚いた。「**間違った常識を当たり前だと認識することはやめたい。**」
- ・他の班の発表やデジタル教科書の映像などを見ながら、曖昧だった考えが鮮明になり、納得できた。

～単元全体に対して～ (生徒の振り返りより)

- ・この単元の授業を受ける前は、普通にただ電気を利用して生活していただけだったが、単元の授業を通して、生活で利用していた電気のしくみがわかり、すごいものだとわかってよかった。
- ・この単元で学習したことは見えない場所で使われていて、見えないからこそ、しっかりと理解できたのでよかった。たくさんを学習して教室の蛍光灯は、スイッチとどのようにつながっているのだろうと考えるようになった。

【英語】

(1) 単元名 Unit10 「あこがれのボストン」(第1学年)

(2) 本時の目標

- ・友人が作成した「夢の電化製品」に関する英文を読み、良さや改善点を伝えることができる。
- ・友人からのコメントを元に、「夢の電化製品」についての英文を改善して伝えることができる。

(3) 本時の評価規準

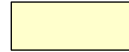
「夢の電化製品」を買いたいと思ってもらうために、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて、電化製品の魅力をよりよく伝えている。

(思考・判断・表現 / 主体的に学習に取り組む態度)

(4) 授業の展開

時間	生徒の活動	指導者の活動	指導上の留意点 ◎評価規準〈評価方法〉									
(3分)	○【Warm-up】 ・即興1分間スピーチを行う。	○【Warm-up】 ・即興1分間スピーチのモデルを示す。	〈行動観察〉 ・英語を用いる雰囲気をつくる。(アイスブレイク)									
受け止める、 考える・ 予想する (12分)	Today's Goal : 「夢の電化製品」の英文を改善しよう											
確かめる (20分)	○【Activity 1】対話活動 ・前時の学習内容を復習する。 ・作成した「夢の電化製品」の英文を、他のグループと交換する。 ・他グループが作成した原稿を読み、良さや改善点を付箋に書き出す。その付箋を原稿横の「メモ」欄に貼り付け、元のグループへと返す。 ・自グループに原稿や付箋が戻ってきたところで改善点を確認・修正する。(協議の上、直さない選択も可とする) ・途中、他グループの改善の様子を共有する中で自グループにも生かす。 ・原稿の改善が終了したグループは、発表の工夫を考え、練習をする。	○作成した英文を交換し、改善点等を記す。 ・工夫する観点を確認。 ①理由や例示等を示す。 ②形容詞や代名詞を用いる。 ③感情や気持ちを記す。 ・机間指導をしながら内容理解を支援する。 ・改善点を直すための支援を行う。 ・変容を見取り、全体へとフィードバックする。 ・発表の練習を促す。 ・改善された原稿を写真に撮影してモニタに写し、視覚的に提示する。	・同じ電化製品の原稿がいかないように交換する。 (担当した電化製品の分布) 黒板 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>7 レンジ</td> <td>4 掃除機</td> <td>1 レンジ</td> </tr> <tr> <td>8 掃除機</td> <td>5 洗濯機</td> <td>2 掃除機</td> </tr> <tr> <td>9 洗濯機</td> <td>6 洗濯機</td> <td>3 レンジ</td> </tr> </table>	7 レンジ	4 掃除機	1 レンジ	8 掃除機	5 洗濯機	2 掃除機	9 洗濯機	6 洗濯機	3 レンジ
7 レンジ	4 掃除機	1 レンジ										
8 掃除機	5 洗濯機	2 掃除機										
9 洗濯機	6 洗濯機	3 レンジ										
確かめる (10分)	○【Activity 2】 ・空き教室を利用し発表を撮影する。 ・1つのグループの発表をモニタに写し、良い点と課題点を共有する。 ・次時は発表するための練習を行う。	○発表を撮影させる ・タブレット操作に不安があるグループへ補助する。 ・発表の改善点を共有し、次時への課題とする。	・空き教室を利用し撮影を行う。 ・原稿の改善が完了していないグループは教室で修正を続けていてよい。									
わかる (5分)	○【Reflection】振り返り活動 ・振り返りシートを記入する。 本時の目標に基づき、振り返りを行う。	○【Reflection】 ・本時の目標に基づき、どんなことを生徒に振り返らせるか明確にする。	〈振り返りシート記述分析〉									

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善



生徒の姿



教師の手立て・改善点等

【授業の型】

①受け止める

○意欲的に課題に向かう姿勢があった。(主体的)

②考える・予想する

○他のグループの原稿を読み、自分たちのグループとの比較を通して、グループ内で検討することができた。

③確かめる

○他グループからのアドバイスを素直に聞き入れ、文章を修正できた。(対話的)

④わかる

○4つの視点に基づいた振り返りを書くことができた。



- ・夢の電化製品を考えるという生徒にとって興味を持つ、主体的に学べる題材の選定。
- ・原稿の修正のために、工夫する観点を全体で確認し、課題を明確化する。
- ・学びを深める必要感のある対話活動の設定。
- ・自己の学びを意味付ける振り返り活動の指導。

【対話活動】

○自分の考えを持ち、グループや全体で発表する中で、他者の考えから学び合いができていた。

○文の正確性よりもどんな内容を伝えたいかということを思考・判断していた。

- ・「個→グループ→全体→グループ」の流れで活動することで、自分の考えを伝えるだけでなく、他者の考えから学び合う機会をつくる。
- ・他者の考えを素直に受け入れる人間関係づくり。



- ・課題に自由度があり、学力差に関係なく全員が意欲的に取り組むことができる課題設定をする。
- ・改善する意図をしっかりと伝え、主体的に取り組めるようにする。
- ・改善する視点を全体で丁寧に確認してから取り組むことで、必然的に内容の改善に意識がいくように仕組む。
- ・他者との対話を意識したプリントづくり。

【ICTの活用】

○改善する視点を大型モニターで投影しておくことで、常に確認しながら思考できていた。

○グループごとに自分達のプレゼンを動画撮影し、見返すという対話活動を通して改善点を見つけることができていた。

- ・アニメーションや色分けなど大型モニターへの投影を工夫して行うことで視覚的に意識付ける。

- ・各グループにPCタブレットを配布して、自由に動画撮影できるように準備する。
- ・改善の視点を事前に確認してから取り組むようにすることで、必然的に発表の改善に意識がいくように仕組む。



補足資料

単元デザインシート

単元デザインシート 第1学年（英語）科		単元名 *単元で育成を目指す資質・能力	Unit10 あこがれのポストン (1) 助動詞canや疑問詞whenを用いた文の構造を理解し、それを用いて、自作した「夢の電化製品」について伝えることができる。【知識及び技能】 (2) 自作した「夢の電化製品」について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理して、友達への購買意欲を掻き立てるような発表の工夫をして伝えている。【思考力、判断力、表現力等】 (3) 自作した「夢の電化製品」について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理して、友達への購買意欲を掻き立てるような発表の工夫をして 伝えようとしている。【学びに向かう力・人間性等】		
生徒の実態 演習形式の問題には粘り強く取り組む。また、ペアワーク・グループワークには積極的に取り組む一方で、全体の前で発表することに対する抵抗感が強い。		学校全体が目指す資質・能力とのかかわり 批判的に思考・判断し、自分の考えを根拠を明確にして伝えることができる（思考力・判断力・表現力）			
知識・技能 <知識>助動詞canや疑問詞whenを用いた文の構造を理解している。 <技能>「夢の電化製品」について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、助動詞canや疑問詞whenなどの簡単な語句や文を用いて伝える技能を身に付けている。		思考・判断・表現 友達に「夢の電化製品」を買いたいと思ってもらうために、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて、その電化製品の魅力を伝えている。		主体的に学習に取り組む態度 友達に「夢の電化製品」を買いたいと思ってもらうために、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて、その電化製品の魅力を伝えようとしている。	
単元のイメージ					
次	1(1)	2(1)	3(1)	4(6)	5(1)
学習活動	小学校で学習したcanの意味や用法を確認後、Part1の新出表現、内容理解を行う。	小学校で学習したcan'tの意味や用法を確認後、Part2の新出表現、内容理解を行う。	小学校で学習したwhenの意味や用法を確認後、Part3の新出表現、内容理解を行う。	「夢の電化製品」について簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする。 ・パフォーマンステストを実施する。	単元末テストを実施する。
*達成するための教師の手立て	・canを用いた肯定文・疑問文・否定文を読み、どの程度内容を理解しているかを確認する時間をとる。 ・小学校の学習内容を思い出すため該当ページをスクリーンに映す。	・canを用いた肯定文・疑問文・否定文を読み、どの程度内容を理解しているかを確認する時間をとる。 ・小学校で学習内容を思い出すため該当ページをスクリーンに映す。	・whenを用いた疑問文をどの程度内容を理解しているかを確認する時間をとる。 ・小学校で学習内容を思い出すために該当ページをスクリーンに映し出す。	・少人数グループで「夢の電化製品」に関する英文を、自由な発想で作成させる。 ・製品の魅力がさらに伝わるようにするにはどうすべきかを考え、工夫を促す。 ・友達の発表を聞き、自分が買いたいと考えるグループの商品を選ばせる。	can, cannotやwhenの定着度合いを適切にとらえ、その後の指導に生かす。
振り返りの視点と方法				<視点> ①何が分かったのか、できるようになったのか ②何がわからないのか、できないのか	
重点	知識・技能	知識・技能	知識・技能	思考・判断・表現 / 主体的に学習に取り組む態度	知識・技能
記録				○	○
評価内容及び方法	【知識・技能①】 行動観察、ワークシート	【知識・技能②】 行動観察、ワークシート	【知識・技能③】 行動観察、ワークシート	【思考・判断・表現】 行動観察、振り返りシート、パフォーマンステスト	【知識・技能④】 小テスト

単元デザインシート 第2学年（理）科		単元名 *単元で育成を目指す資質・能力	電流とその利用 3章:電流の正体(6時間) 終章:どれだけ電流が流れたか(2時間) ①電流についての観察・実験を通して、電流と電圧との関係および電流のはたらきについて理解させる。 ②電流と磁界を日常生活に関連付ける初歩的な見方や考え方を養う。 ③静電気の性質を調べ、静電気の流れが電流であることを見いだすとともに電流が電子の流れであることを知る ④学んだことを活かし、日常生活と関連した発展課題を設定し、課題解決に向け主体的に学習に取り組む。		
生徒の実態 実験結果の考察、振り返りカード、定期テストの結果より、「思考・判断・表現」の項目において課題が見られる。		学校全体が目指す資質・能力とのかかわり 批判的に思考・判断し、自分の考えを根拠を明確にして伝えることができる。(思考力・判断力・表現力)			
知識・技能 ①摩擦することにより物体に電気がたまることや、電気には＋－があることを理解し、知識を身に付けている。 ②静電気と電流の関係を理解し、知識を身に付けている。 ③真空中にある1対の電極に高い電圧を加えると放電が起こることを理解している。 ④電子線は電子の流れであることを理解し、知識を身に付けている。 ⑤電流は電子の流れであることを理解し、知識を身に付けている。 ⑥放射線の性質や利用について知る。		思考・判断・表現 ①実験により、電気の方には引き合う力と押し合う力があることを見だし、自らの考えを言いたりまとめたりして、表現している。 ②真空放電について、電流と関連づけ、自らの考えを導いたりまとめたり表現したりしている。 ③電子線の流れを電子と関連づけて考えている。 ④演示実験をもとにして、電流の正体について、科学的根拠に基づいて考え、表現することができる。		主体的に学習に取り組む態度 ①静電気が流れるときの現象に関心をもち、静電気と電流の関係について調べようとする。 ②演示実験から電流の正体について関心をもち、科学的根拠に基づいて説明できるように主体的に課題に取り組むことができる。 ③学習したことを活用して、課題に取り組んでいこうとする。 ④放射線の性質や利用について関心をもち、調べようとする。	
単元のイメージ					
次	1(1時間) 静電気	2(1時間) 静電気と電流	3(2.5時間) 電流と電子	移行(0.5時間) 放射線	終章(2時間) どれだけ電流が流れたか
学習活動	静電気の性質を調べる実験を行い、異なる物質どうしをこすり合わせると静電気が起こり、帯電した物体間では空間を隔てて力がはたらくことを理解させる。	静電気と電流の流れであることを考えさせる。	様々な演示実験から電子線の観察を行い、電流が電子の流れであることを既習事項や科学的根拠をもとに、考えさせる。さらに電流の流れと電子の流れが逆であることの歴史的背景を押さえる。(本時)	放射線に関する資料を使いながら、性質や利用について、理解させる。	学んだことを活かし、電気器具に流れる電流の大きさを考えることができる。
*達成するための教師の手立て					
振り返りの視点と方法	振り返りカード 何が理解でき、何がわからなかったのか 自分がどのように考えたのか 他の人の意見を聞いて、分かったこと、考えたこと 日常生活と学んだこととのつながりは何か				
重点	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能	主体的に学習に取り組む態度
記録		○	○		
評価内容及び方法	【知識・技能①】 【思考・判断・表現①】 行動観察・振り返りカード・小テスト	【知識・技能②】 【主体的①】 行動観察・振り返りカード・小テスト	【思考・判断・表現②③④】 【知識・技能③④⑤】 【主体的②】 行動観察・振り返りカード・小テスト	【知識・技能⑥】 【主体的③】 行動観察・振り返りカード	【主体的③】 行動観察・振り返りカード

月日 (Date) 2/1 (月)		今日、遅刻・欠席・早退した仲間
教科	今日の授業で学んだ大事なこと (ポイントを書こう!)	NEWS (世の中の動き) or 先生の話から
国語	作られた「物語」を超えて 音読, 感想を班の人と交流する各組の発表 自分以外にもゴリラは凶暴な動物だと思っ ていたが、優しい動物という考えに変わ った人もいた。 今日の常識を真に受け、疑っていること も大切。	「Black Lives Matter, 人種差別 抗議運動がノーベル平和賞 候補に」
社会	体育 ソフトテニスラスト 前半はハーコートでラリーをしまし た。後半は男女に分かれてソフト全 部をつかてゲームをしました。前衛も ありだった。前衛をやりました。最後は ボレーを決められたので「楽しかったぞ」	上の事柄に対して、私が考えたこと 英語の授業でビデオを見たけど「黒人は白人より弱い という対比をされていき、ニュースでも黒人が射 殺されたというのを見たことがあるけど、それが辛い と思う。黒人も白人でも1人の人間ということは何となく 変わらないうえ、誰の命も無駄にはしてはいけない。この ノーベル平和賞などを通してみんなに伝われば、 学習でわからなかったこと、家庭で取り組むことは? 中の人みんな(家庭学習の計画)の命は平等、大切な いふことばかりで差別が、減るかもしれないから ノーベル平和賞に選ばれてほしい。
数学	円周角の定理の利用 ①点Pの内側 ②点Pの外側 点Pが内側でも外側でも 相似の証明ができれば「対応する 辺の比は等しい」で $axb=cxd$ が成り 立つ。この証明をするときはどの弧からつら かしている円周角の角を見つけること $axb=cxd$	音楽の7-7 数学7-7 P104 ~ 120 (分かるとう) 漢字 P40 ~ P45 good!
英語	中学校生活を振り返って これまでとこれからをふまえて英作文をつくる ↓ 中学校3年間で「 頑張ったこととやるべきこと」 → 高校でどうしたいか (勉強や部活など) 「 学んだことをどう活かすか」	今日のノルマ (責任) は果たせましたか? 【 Yes ・ No 】
理科	自然環境の調査 川や湖、沼の汚れの程度を調べる [水生生物の採集 野鳥の観察... 野鳥の種類と個体数] (簡易水質検査器 の地球温暖化... 温室効果ガス 比較 → 気温の変化、動物や食物の減少、二酸化炭素の増加)	自分のノルマ (クラス・班・委員会) は? 係の仕事を忘れず 自分が今日できなかったことは何ですか?
明日の予定		★★ 今日一日を振り返って (先生へ) ★★
時	Subject (教科)	内容 (含む変更) ・準備・宿題
1	数	いつも
2	英	読解 単元テスト2/8
3	社	つづき いつも通り
4	音	展覧会の絵 音楽の7-7
5	技	PC室 いつも通り
6	総	テスト勉強

引継ぎで頑張っています。休み時間の使い方も考え
ながら過ごせるようにしたいです。立派ですね!
成果は必ず出ます! 続けて頑張りましょう!